行ゅ五

Ś

影が浮う

今ょぶ

夜点

月き

波紫俺ポお は猪の貝になる。前は魚になるという 前ぇ が来るたび酒を飲む も海が酒ならば

月音何を窓を更なは、を辺べけ

にうつ

á E

は黙って見るごをし何をされる

0) n か

ばか . る は か

空が代か酒はつ わ まみは にとろけた そうさ俺 をががまれる。一本に の 脳っ

頭がに に さ さ が を を 注 か を え ぐ ぐ

り身月にも届れるできる。 昇電は 泥が 土と に しご 墜ちるとも 7 は 酒ざけ

そ 几 でべ

大ポヤ 魑ょ盃き 入トラ小トラ管を巻く マタノオロチョンター

> 1の大漁旗 たいりょうき 原 のぼ

「な く響び び操 くい

今ま天でん 日まの は夢め く地をか りを落った。 返す過ぎを 通う宿酔 あやま かっこちて つもの問い

その 0) N 河原の一のでは崩れている。 日ででも · é

一日必ず三百杯されば尽くさんこの盃をされば尽くさんこの盃を 自ずと心開くべし わずかに三万六千日
たとえ百年生きたとて は を て を

井 Ш 翼 拓 君 君 作 作 Ш̈́ 歌